

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①教師の授業力指導力の向上への取組を継続していくとともに、子どもたちの表現力や話し合う力を高めるための取組を行っている。②重点研究テーマ「自ら学びに向かう子どもの育成～子どもが自己を表現し、学び合う授業づくり～」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、課題意識や目的意識をもち活動に取り組んだり、社会と進んで関わろうとする子どもを育成する。	①指導力向上のための学習会を定期的に行ったり、学年だけでなく様々な職員と情報交換をしたり相談したりする場を設けることができた。 ②生活科・総合的な学習の時間を中心に子どもたちが課題意識や目的意識をもち、その実現に向かって主体的に学んでいけるよう支援した。今後は、子どもたちが自分の思いや考えを表現する力が高まっていくよう支援していく。	A
豊かな心	①スタートカリキュラムを軸として、重点研究を行っていく。学校全体で児童を見守っていく体制をつくる。 ②一人ひとりを大切に児童指導をし、自己肯定感を高める。 ③特別活動(学級活動、クラブ、委員会、異学年交流)で児童の自主的な活動を推進していく。 ④道徳のワークシートを統一・改善し、さらに蓄積していく。	①スタートカリキュラムや重点研究の授業研究会などでは、学級の担任だけではなく様々な職員で子どもたちのよりよい支援について検討を行った。 ②教育相談を年2回の実施から3回に増やし、一人ひとりから困り感や悩みなどを丁寧に聞き取り指導を行うように進めた。 ③特別活動の目標を明確にすることで、児童が自主的に活動できるように体制を整えた。 ④道徳のワークシートを統一化し、蓄積することができた	B
健康教育	①児童の運動の機会を増やせるよう、体育科の授業内容を工夫したり振り返りカードやアンケート等を活用したりして、児童の実態を把握しながら体力向上を図る。 ②健康診断前後や保健室に来室した際に、発達段階に合わせて視覚的な資料等を活用し、保健指導の充実を図る。 ③食育指導では、児童会による活動を計画し、年間を通して食に関する興味関心を高めたり栄養の知識を深めたりしていく。また、保健指導と食育指導を合わせて行い効果的な健康教育を進めていく。	①活動規制が緩和され、運動する機会を増やすことができた。体育科の授業では、児童の実態を踏まえタブレットを活用したり振り返りカードを活用したりして体力向上に向け取り組んだ。 ②健康診断の事前指導をタブレットを活用して行った。学校保健委員会では、歯と口の中の健康について、学校歯科医や関係機関と連携し保健指導の充実を進めた。また、6年生は、薬物乱用防止教室を行い生涯にわたっての健康な体づくりについて学びを深めた。 ③食育指導では、児童会活動で食育かるたを作成したり、職員食レポやばくばくだよりを活用したりして興味関心を高め指導を行った。	B
自分づくり	①1・2年生は生活科を中心に、3年生以上は総合的な学習の時間等で地域の方やいろいろな職業の方とかかわる機会をつくり、体験的な活動を通して自分の可能性を広げることができるようにする。 ②行事や学習活動の振り返りのほかに、毎月振り返りができる機会をつくり自分の成長を実感したり、めあてをもって生活できるようにしたりする。自分づくりパスポートに蓄積していくことで、児童間や教師、保護者からの評価を自分の成長として自己評価できるようにする。	①全学年を通して、総合的な学習の時間や各教科で、地域の方々や様々な職業の人と関わる機会を多くつくることができた。体験的な活動を通して、自分の思いや願いを表現することができた。 ②生活目標から自分のめあてを考え朝会で発表したり、毎月自分づくりパスポートで活動のふりかえりの時間を設け自己評価を行ったりして、成長を感じられるようにした。	A
いじめへの対応	①年に2回いじめアンケートを実施し、同時期に教育相談も実施することでいじめの積極的認知をさらに推進していく。 ②いじめの可能性のある案件に関しては、即時いじめ防止対策委員会を開き情報共有をする。 ③年2回YPアンケートを実施し、学級風土づくりや学級経営に活用する。	①年2回いじめアンケートの実施と教育相談を組み合わせることで、児童が困り感を発信しやすい環境を整えた。 ②いじめの疑いがある事案に対して、担任だけでなく、学年主任や専任と情報を共有して、素早く対応できるようにした。 ③アンケートを実施して学級風土の分析を行ったが、その後の支援についてより検討を進める必要がある。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修会に中堅教員が入り、研修の進め方についても支援を行う。メンター自身のためになり、過度な負担にならないメンター研修を目指し、改善していく。指導案検討は学年研究会で行うが、授業後の反省はメンター研で行う。 ②仕事の進め方や評価の仕方、あゆみの書き方など若手の職員が参考にしやすいように、メンター研などでも提示してもらうことで、働き方改革の工夫と共有、人材育成を行っていく。	①メンター研修会では、事前研修を取り入れ授業の進め方や学級経営などについて話し合う機会を設けた。また、授業後にも振り返りの時間を確保し内容について深めることができ成果のある研修を行うことができた。 ②他の職員の授業を見る機会や特活や評価について研修を行い、学級経営や授業改善に繋げることができた。	A
特別支援教育	①教育のユニバーサルデザイン(環境・授業)について、引き続き学校全体で共通理解を図る。 ②iPadのアプリやキーボード入力等の各種機能を活用し、書字や視覚的な学習支援を図る。 ③個別支援学級の取組について一般級の児童が知る機会を設けるなど、個別支援学級と一般級の交流を推進する。また、個別支援学級と一般級の担任が密に連携を取り、児童と発達特性に関する理解、共有を図る。	①研修等で共通理解を図った。 ②昨年度に引き続き、キーボードでの入力や音声入力などで書く負担を減らす支援ができた。 ③個別支援学級と一般級の担任が連携を図り、児童の発達の特性の共有を図ったり、交流の仕方について考えたりすることができた。個別支援学級の取組を学年の掲示板を使って発信した。	B
多文化共生	①子どもと保護者を受け入れる環境づくりを図る。やさしい日本語で配付物を作成したり、重要な配付物に印を付けたりして、保護者に分かりやすくする。 ②継続して、鶴見ひまわりと交流を図る。 ③日常の授業や食育、音楽等様々な教科で他国の文化に触れ、親しむ。外国籍児童、外国につながる児童が自身の国の文化を大切にできる機会を作っていく。	①保護者向けの配付物では、重要な物や返信が必要な物が分かるスタンプを押す取り組みを取り入れた。可能な限り英語や中国語での翻訳版のお知らせを準備した。 ②鶴見ひまわりの職員の方々から外国から日本に来た子どもたちの気持ちを考えられる機会をつくるための劇を行っていただき、多文化共生への理解を深めた。 ③日常の授業や食育、音楽朝会で多文化にふれる機会を設けた。	B
GIGAスクール構想	①校内研修を充実させることで、児童のタブレット端末活用のスキルが向上するようにする。 ②育みたい力が身に付くようにするには、ICTをどのように活用するか検討する。 ③ICT活用の指導計画を設定し、学年ごとに指導内容を系統立てていく。	①メンターとも連携しながらアプリ研修を開催した。触ってみることで、あの学習で活用してみようという活用意欲が高まった。 ②ドリルの電算化に伴い、各教科部会と協議することができた。 ③市が示している指導計画をもとに、本校での指導計画の整備をすることができた。	B
地域学校協働活動	①幼保小の交流を少しずつできるように、連携する保育園(芦穂崎、すずらん)に連絡をし、年間を通してどのような交流を行うことができるかを検討する。 ②学校運営協議会で出された意見を職員に伝え、職員から伝えたい思いなどを委員の方に伝えることで、よりよい協働活動になるよう改善していく。	①コロナウイルス感染症が5類になり、連携する保育園がお散歩で来校したり、1年生との交流会を行ったりすることができた。次年度は、年度初めに交流計画立案を検討したい。 ②学校運営協議会の報告が出され周知された。今後は、周知されたことを基に、よりよい協働活動に向け仕事内容や担当を明確にして取り組めるようにするとよい。	B
ブロック内評価後の気付き	各校の情報交換や共有は常時、管理職、教務主任、児童支援専任間で行ってきた。今年度も、職業体験は中学生が直接小学校に来て体験ができなかったため、来年度はぜひ直接体験に来ていただきたい。中学校への部活動見学は6年生が体験に行くことができ、充実した時間を過ごすことができた。今後も続けていきたい。ブロック内の研修が今年度も実施できなかったため今後どのようにしていくかを相談していきたい。		
学校関係者評価	今年度も子どもたちが、地域のイベントやまちな商店街とたくさん関わる機会があり、交流することができてよかった。また、これらの取組を支援している地域コーディネーターやボランティアの方がたくさんおり、子どもたちのことを学校やまちな家庭とともに育てていると実感することができた。今後も、学校とまちが協力しながら子どもたちとつながっていききたい。また、ボランティアとして関わる機会が集中してしまうときに、どうしても人が足りなくなってしまうのでボランティアを募集したり、時間設定の調整をしたりできるとよい。子どもたち一人ひとりが安心して活動できるように気になったことは情報を共有しながら学校と協力していきたい。		
中期取組目標振り返り	活動の制限が緩和されたことで、活動の幅がよりひろがった。総合的な学習では、子どもたちが課題意識や目的意識をもち、その実現に向けて主体的に学んでいくための支援をしてきた。今後は、子どもたちが自分の思いや考えを表現する力が高まっていくように支援していく。GIGAスクール構想では、より充実したICT活用の仕方や学習アプリの使い方の研修なども充実させていきたい。鶴見小学校の一人ひとりが安心して生活できるように全職員で、児童理解に努めていく。		